

## チリ政治情勢報告（7月）

平成29年8月

### 1. 概要

(1) 内政では、野党会派「Chile Vamos」（中道右派）及び野党会派「拡大前線」（左派）において大統領選予備選挙が実施され、「Chile Vamos」からはピニエラ候補（前大統領）、「拡大前線」からはサンチェス候補（ジャーナリスト）がそれぞれ選出された。

(2) 外交では、シララ川の水資源利用を巡るボリビアとのICJ裁判に関し、チリ政府がICJに申述書を提出した。また、ペルー・リマにおいて第1回チリー・ペルー二国間閣僚会合が開催された。

(3) 8月2日発表のAdimark GfK社調査による7月のバチェレ大統領の支持率は32%（前回比+2ポイント）、不支持率は64%（前回比+1ポイント）であった。

### 2. 内政

#### 大統領選予備選挙の実施

2日、野党会派「Chile Vamos」（中道右派）及び野党会派「拡大前線」（左派）において大統領選予備選挙が実施され、「Chile Vamos」からはピニエラ候補（前大統領）、「拡大前線」からはサンチェス候補（ジャーナリスト）がそれぞれ選出されたところ、選挙結果概要は以下のとおり。

#### ア 選挙結果概要（選挙管理委員会の発表。開票率99.94%）

(ア) 野党会派「Chile Vamos」（中道右派）：総得票数141万7637票  
i ピニエラ候補（前大統領。無所属。国民革新党（RN）及び独立民主同盟党（UDI）支持）：58.36%（82万7347票）

ii オサンドン候補（上院議員。無所属）：26.24%（37万2011票）

iii カスト候補（下院議員。政治発展党（Evopoli））：15.40%（21万8279票）

(イ) 野党会派「拡大前線」（左派）：総得票数32万7613票

i サンチェス候補（ジャーナリスト。無所属。民主革命党等が支持）：67.56%（22万1348票）

ii マジヨル候補（社会学者。無所属）：32.44%（10万6265票）

#### イ 今次予備選挙の投票率等

(ア) 今次予備選挙における全投票数は181万1411票（うち有効投票数174万5250票）であり、投票率は約13%（なお全有権者数は1355万2823人）。また、全投票者のうち約81.2%は「Chile Vamos」に、約18.8%が「拡大前線」に投票した（注：予備選挙は一人一票のみ投票権を有し、一人で「Chile Vamos」と「拡大前線」の両方に投票することはできない）。これは前回大統領選予備選挙（2013年6月30日実施）の有効投票数（約300万7千票）を大きく下回るが、事前に予想されていた投票率を上回る結果となった。

(イ) また、全投票者のうち約47%は「ピ」候補に投票した。

(ウ) 今回の予備選挙では、国外に居住するチリ人の在外投票が可能となり、在外投票の全有権者（2万1270名）の13%にあたる6555名が投票を行った。

#### ウ 今般選挙のポイント

(ア) 「Chile Vamos」においてはピニエラ候補が2位のオサンドン候補の2倍以上の得票率で勝利し、会派内の統一候補としての立場を固めることができたと言える。ただし、「オ」候補は事前予想よりも高い得票率であり、特に自身の選挙区を含むサンティアゴ東部での得票率が高かったことから、今後「ピ」候補にとっては、低所得層を中心とする「オ」候補の支持層をいかに取り込めるか、選挙キャンペーンの戦略の変更が求められている。

(イ) 「拡大前線」においては、2候補の合計得票率は全有効投票数の18.8%（32万7613票）となり、事前に目標とされていた数値を下回ったことから、政治的な動員力には課題があることが明らかとなった。

(ウ) なお今般予備選挙に参加しなかった「新多数派」においては、選挙の投票率が予想よりも高かったことから、与党会派も予備選挙を行うべきであったとするコメントが多く見られ、与党会派の今後の選挙方針を早急に考える必要があると危機感を持ってみている。

### 3. 外交

#### (1) 対ボリビア外交：シララ川水資源利用を巡るICJ裁判：チリによる申述書提出

3日、ムニョス外相は、シララ川の水資源利用を巡るボリビアとのICJ裁判に関し、チリ政府がICJに申述書を提出した旨発表した。今般の申述書提出は、ICJでの裁判日程に基づき行われたものであり、ボリビアは2018年7月3日までに答弁書を提出する。チリはICJに対し、シララ川は国際河川であり、チリ及びボリビアは（同河川の水資源を）公平かつ妥当に利用できる

ことを宣言するように求めている。また、道理にかなった利用基準のもとで、チリがシララ川の水を現在と同様に利用する権利を確立することを要請している。「ム」外相は、今般提出された申述書では法的・科学的な主張により、非常に単純な現実を確認している、即ちそれは、シララ川はチリ及びボリビア間の国境を、傾斜と重力の作用により、完全に自然な形で横断しているということである旨述べた。

## (2) チリ政府要人の外国訪問

### ア バチエレ大統領らによる第1回チリーペルー二国間閣僚会合への出席

6-7日、ペルー・リマにおいて第1回チリーペルー二国間閣僚会合が開催され、チリからはバチエレ大統領及び18名の閣僚が出席した。同会合は、社会・文化面での協力、安全保障・国防、貿易、投資・観光促進、科学技術協力、環境、持続可能な発展、エネルギー・鉱業、インフラ、国境間協力等の分野についての作業グループがある。今般の会合においては、気候変動、移民・ジェンダー、貿易、建築といった分野で合計119件のプロジェクトに合意された。また閣僚会合に並行して、両国の企業関係者による会合も実施された。

### イ バチエレ大統領によるメルコスール首脳会議への出席

21日、アルゼンチンにおいてメルコスール首脳会議が開催され、準加盟国であるチリからバチエレ大統領及びムニョス外相が出席した。「バ」大統領は、メルコスール加盟国はチリにとっての主要貿易相手国であり、さらにチリの対外投資の48.6%はメルコスール諸国に向けられている点に言及した。また本年上半期までチリが太平洋同盟議長国を務め、メルコスールとの歩み寄りが一層進められた旨述べた。

## (3) 外国要人のチリ訪問

### ア コレイロ＝プレカ・マルタ大統領

17日、コレイロ＝プレカ・マルタ大統領がチリを訪問し、バチエレ大統領との首脳会談を行った。同国の大統領がチリ及び南米を訪問するのは今般が初めて。同大統領の訪問中には、バチエレ大統領との首脳会談及び拡大会合が行われた（チリ側からムニョス外務大臣、メナ環境大臣、パスクアル女性・ジェンダー平等大臣等が出席）。会合においては、本年上半期にEU議長国を務めたマルタの取り組みや持続可能な開発に向けた課題等について協議された。なお今般訪問中に両国間での政策協議のための枠組みの創設することを規定した合意文書に署名された。

#### イ カーマ・ボツワナ大統領

31日、カーマ・ボツワナ大統領がチリを訪問し、バチェレ大統領と首脳会談を行った。その後、両国間で「投資促進・成長及び貿易多様化のための覚書」に署名された。

#### (4) 外務省プレスリリース

##### 北朝鮮のミサイル発射に対する非難声明

4日、チリ政府は北朝鮮のミサイル発射に対する非難声明を発表したところ、同日付外務省プレスリリース概要は以下のとおり。

ア チリ政府は、北朝鮮による新たな弾道ミサイル発射を強く非難する。

イ チリは、北朝鮮が犯した行為、即ち朝鮮半島及び国際的な安全保障を不安定化させ、関係する国家間の対話を妨害する行為に、懸念をもって見ている。

ウ 同様に、これは北朝鮮による弾道ミサイルの発射を禁じる安保理決議1718号(2006年)、1874号(2009年)、2087号(2013年)、2094号(2013年)、2270号(2016年)、2321号(2016年)に対する明白な違反である。

エ チリは国際社会と共に、北朝鮮に対し、世界平和の脅威となり対話の道を閉ざすような、大陸間弾道ミサイルの開発を中止するよう呼びかける。